

国立研究開発法人水産研究・教育機構
令和元年度第3回契約監視委員会議事概要

1. 日時 令和元年11月6日（水） 14:00～16:00
2. 場所 クイーンズタワーB棟7階D会議室（神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3）
3. 出席者
委員長 蒲池 孝一 公認会計士
委員 苑田 浩之 弁護士
委員 林 義亮 神奈川新聞社 取締役論説主幹
委員 森 哲哉 公認会計士
委員 鈴木 孝 (研) 水産研究・教育機構 監事
委員 檜山 義明 (研) 水産研究・教育機構 監事
(研) 水産研究・教育機構事務局
4. 議題 ① 令和元年度第1四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果
② 令和元年度第1四半期の契約の抽出案件
③ その他

5. 議事概要

・議題① 令和元年度第1四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果

令和元年度第1四半期の契約実績、競争性のない随意契約及び一者応札・応募の類型別内訳、類型別の平均応札者数及び平均落札率、入札等に関するアンケート調査の結果と、それを踏まえた入札改善策などについて、事務局から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は、次のとおり。

○アンケート調査で寄せられた要望の中に、「入札用の封筒を無くすか、機構側で用意してほしい」との要望がある。もし、このことが入札の競争性に影響しているのであれば、電子入札の導入を本格的に検討しても良いのではないか。契約の複数年化の要望についても、柔軟に検討していただきたい。

○アンケート調査で寄せられた意見の中に、「昨年と比べ公告期間が十分に確保され、入札の時期についても、繁忙期の3月を避けてもらい大変ありがたかった」との意見がある。今後ともこのような意見が寄せられるよう、契約業務を行っていただきたい。

・議題② 令和元年度第1四半期の契約の抽出案件

令和元年度第1四半期に締結された契約の中から委員により抽出された12件の契約について、事務局から契約内容の説明があり、それぞれ審議を行った。

各案件についての主な質疑応答は、次のとおり。

(競争性のない随意契約)

背鰭装着型衛星発信機（国際水産資源研究所）

特になし

(一者応札・落札率100%)

鮫類背鰭装着型衛星発信機外 1 点（本部契約課）

○仕様書に定めるサイズ条件を満たさない製品もあって、対象製品が限定される結果となり、一者応札となったとのことであるが、仕様書の条件を満たす製品は、複数あったのか、それとも 1 製品だけだったのか。

→鮫類などの海洋生物に装着する衛星発信機は複数メーカーから販売されているが、調査研究上の必要性により仕様書で定めたサイズ条件より大きいものもあって、対象製品が限定され、結果的に一者応札となった。

なお、当機構の規程上、「代替性のない特殊な機器」の買入れで販売業者が限定される場合については随意契約を行うことができることになっているが、今回の衛星発信機は、いわば汎用的な機器であって、「代替性のない特殊な機器」とは言い難いこと、仕様書の条件を満たす製品が複数販売されている可能性があることから、随意契約を行うのではなく、一般競争入札を行った。

今後同様の調達を行う場合は、今回調達した衛星発信機の使用結果、発信機が海洋生物の行動に与える影響に関する最新の研究動向等を踏まえながら、あらためてデータを安定的に取得するのに必要な発信機の仕様について検討することとしたい。

(二箇年連続一者応札・落札率100%)

7～9月分船舶用重油（小樽港）（本部船舶管理課）

○一者応札の改善策として、本業務を実施可能と思われる業者に対し、入札参加をはたらきかけるとのことであるが、どのように行っていくのか。

→小樽港には今回の入札での落札業者以外にも、バージ船所有者や、陸上給油施設を所有している業者がいることは確認できている。そういった業者に対し、入札参加をはたらきかけていきたい。

○小樽港で給油可能な業者はどのくらいいるのか。給油方法を変えることにより入札に参加する業者が増える可能性はあるのか。

→現時点で確認できている業者は、4 者程度である。船舶への給油方法は、バージ船による給油が主流であるが、港によっては陸上給油施設が設置されている。給油方法として陸上給油施設からの給油が可能な業者について、さらに情報収集を行い声かけすることにより、入札参加業者が増える可能性がある。

(入札者なし)

水産研究・教育機構西海区水産研究所八重山庁舎で使用する電気の調達（本部契約課）

○今後の対応として、供給可能な業者の入札参加を得られるよう声かけを行っていくとのことであるが、どのように行うのか。

→今回の契約相手方である沖縄電力（株）に対して入札参加を呼びかけるとともに、八重山庁舎に電気を供給可能な業者が他にないか情報収集を継続し、可能性があれば声かけを行っていくこととしたい。

(一者応札・落札決定後、契約辞退・高落札率)

水産研究・教育機構高圧電力九州地区1箇所（B）で使用する電気の調達（本部契約課）

特になし

(一者応札・高落札率)

塩（宮城県宮城港）（開発調査センター）

○競争参加資格の更新を失念して本件入札に参加できなかった業者がいたとのことであるが、その業者に競争参加資格があれば落札価格がより安くなることも想定されたのか。

→その可能性はあるが、過去の実績をみると、今回の落札業者の方が低価格の傾向となっている。

○競争参加資格を取得するには時間がかかるのか。

→それほど時間を要する手続きではないが、今回は、競争参加資格がないことが判明したのが入札日の直前だったため、間に合わなかった。

(一者応札)

中央水産研究所資源研究棟新築その他工事（本部契約課 ※施設整備課）

(一者応札・高落札率)

中央水産研究所資源研究棟電気設備新設その他工事（本部契約課 ※施設整備課）

(一者応札)

中央水産研究所資源研究棟機械設備新設その他工事（本部契約課 ※施設整備課）

○本件は比較的大規模な工事案件だと思うが、一者応札となっている。本件入札に関心を示していた業者はいなかったのか。

→今年2月12日に当機構ホームページに発注予定情報を掲載した際は、複数業者が関心を示していた。入札に参加しなかった業者に対し入札不参加の理由を問い合わせたところ、本件の入札公告が4月22日と遅くなったため、資格を有する技術者を他の工事に配置してしまい、本件工事に対応できなくなったとのことであった。

○入札公告が遅れたのは、何か事情があったのか。

→本件工事は、当機構にとって大きな工事であり、組織としての意思決定に時間を要した。

○本件工事のうち、機械設備新設その他工事については、落札率が低くなっており、施工監理をしっかりと行うことが重要である。

(二箇年連続一者応札・高落札率)

海洋水産資源開発事業（いか釣〈北太平洋海域〉）に係る用船（開発調査センター）

○二箇年連続で一者応札となっており、本事業を継続するのであれば、複数年契約を検討した方がよいと思うが、難しいか。

→本事業については、各年度の事業成果を踏まえて、翌年度の事業内容をどうするか判断していく必要があり、複数年契約の実現には難しい面もあるが、検討したい。

(二箇年連続一者応札・落札率 100%)

講義棟及び多目的学生教育棟昇降機保守点検業務（水産大学校）

○過去の契約監視委員会において本件と同様の案件を審議している。その際、一者応札の改善策に向け、独立系保守業者などに幅広く声かけを行うこととなっていた。今回の一者応札改善策の一つとして、これまで必ずしも十分でなかった独立系業者への幅広い声かけを徹底するとのことであるが、これまで、どのような対応を行ってきたのか。

→今回の入札に際し、独立系保守業者、本件保守対象エレベーターのメーカー系列の業者、同業他者、メンテナンス業者の4者に声かけを行ったが、独立系保守業者は定期検査時や故障時の交換部品の入手に時間が必要、メーカー系列の業者は九州地区のみ対応可能、同業他社は他メーカー製造のエレベーターへの対応不可、メンテナンス業者はメーカー系列の業者に再委託が必要とのことで、4者全て入札不参加となった。今後は独立系保守業者に対し更に幅広く声かけを行っていききたい。

○独立系保守業者は、部品の調達、保守点検の技術により、多くのメーカーのエレベーターの保守点検業務に参入している。声かけの対象地域を広げるなど、さらに努力していただきたい。

○毎年実施する業務なのであれば、複数年契約の可能性についても検討してほしい。

(一者応札・高落札率)

次世代シーケンス解析支援および開発支援業務（中央水産研究所）

○仕様書に作業内容、作業従事者に求める資格・技術、実施体制等が記載されているが、本業務を実施したことのない業者でも、その必要性や具体的な内容を把握できるよう、仕様書の内容を見直す必要があるのではないか。

また、業務完了後に提出することになっている解析結果や業務完了報告書は、業務が確実に実施されたことの証明となる。業務完了後に報告を求める内容についても検討が必要ではないか。

→検討したい。

○仕様書の内容を精査することにより、入札参加業者が増える可能性があるので、検討していただきたい。

・議題 ③ その他

事務局から、次回の委員会は、令和元年度第2四半期に締結した契約が審議対象となり、令和2年2月下旬頃の開催を予定している旨の連絡があった。